

2022年度 学校評価 わらべ幼稚園

学校評価委員長 清野文雄

I 経営の重点にかかわること 評価段階
(A:よくできている B:できている C:あまりできていない D:まったくできていない)

1	園教育・保育目標:やさしく・かしく・たくましい子	自己評価	評価	園関係者評価委員会から	
2 重点目標 ・仲間の中で成長し仲間を大切に する子 ・丈夫な体を持つ子	園の教育目標を理解し目指す幼児の姿をイメージして、保育の計画を立てる	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活に追われがちですが、教育目標に沿った保育を考えている努力がうかがえます ・園外保育が多く、わらべの魅力だと思います ・子どもの思いや発言をベースにした活動や行事が進められていると思います 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・季節により様々な保育活動を計画することができた ・園外保育では段階を踏んで距離を延ばすようにした ・イメージ活動をし伝える力、相手のことを考える力を付け、それぞれが楽しめる活動を計画した ・目指す幼児の姿をイメージして取り組んだが、保育の現場は思うようにいかない ・チェックリスト等で日々の保育を見つめ直すことができた 子どもの姿をイメージして保育計画を立て、楽しむ活動を作れてきた ・乳児では子どもにつけて欲しい力について計画してきた ・0歳では体調を気にしながらも園生活を安心して過ごせるよう計画をした 				
	(園関係者評価を受けての改善) 毎年教育目標に向かって計画を立て、実行しようと努力している。 *年間計画・期の計画・月の計画・週案などクラスごと立て、保育をしている				
	子どもの発達や生活を見通して環境設定をしている 子ども一人一人をよく観察し子どもの思いやサインを受け止めて保育できている	自己評価 A	評価	A <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの成長をよく見ながら保育に当たっていると思います ・日ごろから子どもたちの様子を見てくれていて、楽しい保育をしていると思います 	
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの思いを受け止め、声をかけたりスキンシップを取るようにした ・保育士間で常に話し合いを密にしていこうと心掛けた ・環境を試行錯誤しながら変化を加えている・子どもたちの考えを見守りながら援助してきた ・常に子どもの様子を把握しサインを見逃さないようにしている ・環境をマンネリ化しないよ変えながら試行錯誤しながら保育している ・コーナー作りを工夫してきた ・子どもの気持ちに寄り添うよう努力した ・2歳児保育室の環境設定が難しかった ・一人ひとりの表情をよく見るようにした ・乳児は1対1の時間や環境作り一人ひとりの健康状態を見ていき職員間で共有した 					
(園関係者評価を受けての改善策) 毎週の週案会議で子どもの様子や環境作りを報告し合い保育に生かしていく 子どもの人権を尊重し一人ひとりに寄り添った保育をする					

II 各領域にかかわること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	園関係者評価委員会から	
こども園における教育及び保育	(1) 0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験を把握し理解した上でわくわくしながら園生活が過ごせるよう援助する	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い時から平等が当たり前という保育をして欲しいです ・保育者もジェンダー平等の視点を持っていて子どもたちに接してほしい ・子どもを集中させている時に工夫をしているとおもいます ・子どもの声や反応を大事にしてくれている。絵本の読み聞かせ・手遊びなど子どものタイミングに合わせて上手に取り入れてくれているとおもいます
		<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせた言葉の投げかけをするように心がけた ・友だち関係の変化をみながら一緒に遊びに入り援助し関わってきた ・子どもが1日の中の活動で楽しかったと思えるよう援助してきた。 ・励ましたり・褒めたり自信を持つよう声掛けをしていった ・一緒に楽しく過ごし次の日も続きがやりたいと子どもが思う保育をしてきた ・子どもの様子をよく見て、興味関心を把握してきた ・乳児は個人差が大きいので個々に合わせた声かけや援助をした。保育者も一緒に楽しむ保育をした ・笑顔で接するように心がけている ・乳児では家庭での生活を把握し発達段階に沿ってスタートできるようにした。園生活が安心できるようスキンシップ・雰囲気作りをしてきた 		A	
	(園関係者評価を受けての改善) * 子どもの様子ををしっかりと捉え、個人記録を記入し、学年の発達目標に沿い個人の成長を把握する * 保育の楽しみを感じるような取り組みをする 教師も子どもも楽しめるような活動をする				
	(2) 1日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	スキンシップを取り、子どもに寄り添い、安心して穏やかな気持ちで生活できるよう援助する	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳に記入した家の出来事なども子どもに声掛けをしてくれたり、園でも色々なことに気をかけてくれています ・擦り傷などに対応してくれていますが、家庭にも連絡を欲しいこともありました ・先生たちが温かく子どもたちを見守ってくれていると思います
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して園で過ごせるように一人ひとりに合わせた対応をするようにした ・一人ひとりに寄り添うように心がけた ・子どもに声をかけ、話をして寄り添う中で安心して遊ぶようにした ・子どもの様子をよく見て、ほめたり関わりを深めるよう心掛けた ・スキンシップを大切に、子どもが安心できる保育者でありたいと思う ・思いを受け止め甘えられる雰囲気を作るようにした ・子どもの表情・行動等気にかけてながら保育している ・優しくマッサージしたり抱っこしたり膝に乗せたりするよう意識した ・預かり保育や2号児保育では休息の時間や生活リズム・環境を整えて行きたい ・保育者がゆったり行動し安心して過ごせるように意識している 		A		
	(園関係者評価を受けての改善) * どの学年においてもスキンシップが大切。安心して園生活が送れるよう援助する。 * 保育時間がいろいろな為、担任だけでなく教員間で子どもの生活を見守る				

	(3) 環境を通して行う教育及び保育	五感を通しやってみたいと思うような経験を広げていけるような環境を用意する	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディペインティング・色水・虫探し・どろんこ・どんぐり拾いなど家庭ではできないことを取り上げてくれてています ・ダイナミックに遊べるようになったと思います ・週1回のリュックの日(園外保育)では歩く力も付き交通ルールも学んだり外で伸び伸び遊んでいると思います ・畑の活動では食育につながり、食べることの大切さを学べる良い機会だと思います
		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、少しずつ活動を広めていったが、まだまだ不安で思い切り活動ができなかった ・畑作り・収穫・クッキングなどできた ・ワクワクどきどきできるような伝え方で思いっきり楽しく遊ぶよう配慮した ・色水・ボディペイント・どろんこ・砂遊び等思い切り遊ぶようにした ・川遊び・山登り・虫探し等 自然とかかわる事ができた ・自然と触れ合う遊び・手先を使う遊びを遊びの中で取り入れてきた ・乳児は散歩・砂・葉っぱなど自然と触れる体験を大切にしている ・職員は非常ベル・ホイッスルを持ち危険に対し常に気を付けている 		A	
		(園関係者評価を受けての改善) *感性を育てることの大切さを教師間で持ち、様々な体験を計画する 五感を育てる保育をしていく			
2 安全管理・指導	(1) 事故防止 防災	災害・不審者・交通安全など様々な状況を想定し、園児に安全行動を身に着けさせる	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を考えながら発想豊かな遊びを考えるのは大変なことだと思いますが努力をして欲しいと思います ・防災訓練の日など子どもが学んだ事を報告してくれます。経験することが大事だと思います ・子どもが訓練を通し自発的に安全を学んでいると思います ・先生たちが安全面を考えてくれていると思います ・不審者対策では門の施錠や保護者への連絡もお願いしたい
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月防災防犯訓練を実施し、子どもと職員が考えて行動できるように計画した ・その時々状況や成長に合わせて、保育者の行動を変えていくことが必要 ・不審者に対して保育者としての訓練をしていきたい ・散歩で交通ルールや歩き方、行き場所や道路の状況など共通認識を持ちたい ・保育者同士声掛けしながら訓練をしている ・月1回の訓練で意識を高める事ができた ・特に乳児では事故防止は保育者がどう動くか意識してきた ・ヒヤリハットなど安全を考え気づいたら発信していくように心がけた 		B	
		(園関係者評価を受けての改善) *毎月、防災計画を立て、様々な想定で実施している。安全面については教師間で共有していく *ヒヤリハットを利用し安全を確かめる			
3 保健管理・指導	(1) 健康教育の充実	基本的な生活習慣が身につく健康に過ごそうとする	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で手洗い・うがい等の感染症対策をしっかりと頂き子どもが身につけて家でも自らやっています ・交通指導や道路の歩きをしっかりとやらせ学校に行くのにも役立ちます ・基本的な生活習慣が身に付くよう指導してもらっていると思います
		<ul style="list-style-type: none"> ・保健便り・食育だよりを通して情報発信するようにした ・うがいの習慣をもう少しつけていきたい ・コロナ禍、手洗い・うがいなど身につけている ・3歳児も意識してうがい手洗いをするようになった ・乳児は自分で鼻をかんでみようと一緒にやってきました ・生活面・衣服の調節・排泄・食事・睡眠等のリズムを大切に声掛けしている ・0歳児は清潔になった気持ち良さを伝えるようにした 		A	
		(園関係者評価を受けての改善) *学年ごと目標を持ち、基本的な生活習慣が身につくように保育する *特にコロナ禍、手洗い、消毒に配慮していく			

4 特別支援 教育	(1) 支援体制づくり の推進	個々の状況に合わせ支援計画を立て、全職員がかかわりを 持ち援助しようとしている	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援に関しては保育者の人数、研修時間の確保など課題が多いと思います ・グレーゾーンの子が増えていると聞きます先生たちが大変だと思いますが人数を増やして対応していただきたい
		<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子の支援計画を立てて支援する環境を作りたかったが、十分進めなかったのが今後の課題とする ・個々の状況を全体で共有したいが、研修や話し合いがもたれていない ・気になる子の対応を担当で話し合う時間がなかなか取れなかったが本を読んだり、意見を出し合い対応の努力をしてきた ・情報共有はできつつあるが、他のクラスを援助できていない ・その子の状態に合わせ支援する体制を取り、クラスの保育を進めていきたい 			
(園関係者評価を受けての改善) *気になる子の把握、保護者との話し合いなど園長・主幹教諭を中心に計画を立て、全職員が共有して援助できるようにする					
5 組織運営	(1) 組織体制の 充実	日常の保育や園行事について手紙、パネル、写真など利用して、 保護者に説明や協力事項を伝え職員間で連携して教育保育を 進めている	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・わらべ便りや配布される写真で子ども表情や友だち関係がよくわかります ・大きな行事の時はわらべっこ通信やお便りで知らせてくれて様子がよくわかります ・写真の配布をホームページからの希望販売にしたらいいと思います ・コロナ禍で特にホームページを利用できればよいのではないのでしょうか
		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用して伝えていくこと考えたい ・写真などを利用して掲示することで子どもの活動が伝えられる ・子どもの活動・経過・活動の意義などクラス便りで保護者に分かり易く伝えた ・コロナ禍、保護者と話やコミュニケーションを取れなくなっていることが残念です ・多くの行事・年長の行事など多くの教職員がかかわってくれている ・乳児はホワイトボードに記入し毎日保護者に1日の様子を伝えてきた 	A		
(園関係者評価を受けての改善) *保護者に保育の伝達や懇談会開催など丁寧にしていく *ホームページの活用もしていく					
6 研修	(1) 研修体制の 充実	「わらべ独自の保育」どんな遊び・環境・子どもの成長への手立て 具体的な共通理解を進めているか	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・研修をがんばってくれることに期待します
		<ul style="list-style-type: none"> ・研修や話し合いの時間を持ち保育の共通理解を深めてきた ・保育者の経験数が違ったり、捉え方の相違で共通理解が難しくなっているので研修が必要だと思う ・課題を持って取り組みが保育の質の向上につながる為、話し合いで深めたい ・わらべの保育について保育者が同じ方向を向いていけるよう話し合いをした ・夏の研修やリモート研修に参加できた ・園内研修で学年ごとの保育について知る事ができた ・「楽しかった明日も幼稚園行きたい」と思える保育をしていきたい 	B		
(園関係者評価を受けての改善) *「わらべの保育」について研修し共通理解をしていく *いろいろな研修会に参加し自己研鑽をしていく					

7 教育・保 育環境 整備	(1) 教育・保育環 境の充実	ごっこ遊びや子どもがイメージを豊かにする遊びの環境を工夫しているか	A	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の世界とつながる活動は子どものわくわくやイメージを豊かにすることとつながっていると思います ・幼児は毎年、クラス毎テーマがあり、そのことについてイメージを膨らませ、ごっこ遊びなどできていると思います
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長に合わせた環境作りをもう少し考えたい ・コーナー作りスペースの確保をしながら遊びを楽しめるようにした ・園庭でも遊具の配置で遊びやすい工夫をした ・ごっこ遊びやイメージを豊かにする遊びを自分が参加し広げたり伝えていきたかったが気になる子の対応に追われた ・廃材や製作教材を自由に使用できる環境を作った ・コーナー作りがマンネリ化してしまった ・乳児クラスでもコーナーや玩具の数や物の調整に気を付け遊びを進めた 		A	
(園関係者評価を受けての改善) * わらべの保育の中でも重要なイメージ遊び、遊びを工夫する、子どもが考える保育を計画していく					
8 家庭との連 携・協力	(1) 家庭教育へ の支援機能 の充実	子どもの発達や活動の様子を降園時や保護者面接・懇談会で伝えたりお便り・ボードなどで積極的に知らせている	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者も忙しくなっていると思いますが、子供たちの成長を願う気持ちは保育者と同じだと思います。保育士増員など行政にも目を向ける事が大事だと思います ・お迎え時に先生と話ができたり、連絡帳で子どもの様子を知る事ができています ・アドバイスやはげましの言葉をかけてもらいうれしいです ・トラブルのあった時など連絡をもらえてよかったです ・降園時や面接を設けて話が聞きたいという意見もあります
		<ul style="list-style-type: none"> ・登園・降園時 保護者に声掛けし関わりを持つようにした ・保護者に伝え方の工夫をしていきたい ・連絡帳で対応したり、面接をしたり、担任から声掛けをした ・その日の出来事や成長を感じた出来事を保護者に対面で伝えたかったが連絡帳でしかできなかった ・乳児は体調面が気になり保護者に伝えることが多いが、生活面も話ができると良かった 		B	
(園関係者評価を受けての改善) * コロナ禍大変であるが、保護者との懇談、面接、参観など計画し、実施できるよう配慮していく					
9 近隣の園と の連携	(1) 近隣の園と の連携の推進	近隣の小中学校との連携を図り、交流、情報交換を進める	B	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校とつながると良いと思います
		<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を行い近隣の小学校の先生と話ができた 		B	
(園関係者評価を受けての改善) * 幼小関連が大事になってきているので、小学校との連携を実施していく。また、近隣のこども園と連絡を取り意見交換など実施していく					

10 地域との 連携	(1) 信頼される園 づくりの推進	地域住民や施設等とのかかわりを大切にしながら、園だけでは できない体験をする機会を持つようにする	A	評価	・コロナ禍で地域に開かれた教育活動 が困難な中、園外保育を続け、地域との 交流ができていました
		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後、地域との交流など取り入れて地域に根差した園作りを進めたい ・園外保育では地域で出会う方に挨拶を心掛けた ・コロナ禍、S型サービス訪問もできなかった 		A	・真摯な情報発信を継続したことが今後 の地域との交流に生かせると思います
		(園関係者評価を受けての改善) *コロナ禍、大変であるが今後、Withコロナになっていくので、できる範囲で地域とのかかわりを持っていく			
園から 経営のまとめ(成果と課題)				園関係者評価委員会まとめ	
1 園から経営のまとめ(成果と課題) *今年度もコロナ禍で大変な1年であった。今年度は多くの園児や教職員・園児の家族の感染があり、濃厚接触者の判定など含め園としても対応が大変であった。市のコロナ対策の変更に合わせ対応したが不安はなかなか払拭できなかった。特に夏休みは教職員の感染が続き、保育できる保育教諭の数が限られてしまい保育に支障をきたした *保育において活動や行事など配慮しながらも、子どもが生き生きできる活動に取り組んだ 年長児には最後の園生活となるので、なるべくいろいろな体験をするようにした *園外保育も行く場所等を検討し公園や広場、土手など多くいくようにした *保護者との交流や懇談会・参観など人数制限をしながらも昨年より実施するようにした。いろいろな工夫をしていくことを考えたい				*コロナ禍で、先生たちの感染対策の努力は大変なことがあったと思います。 *このような状況の中、子どもたちが楽しそうに毎日笑顔で過ごせたのが良かったです *懇談会や父親参観・わらべ夏祭りなどを形態を考へて実施してもらえてよかった *わらべの保育については先生方を信頼しています ・他園に比べ先生の数が多く、わらべ幼稚園の特色の1つである週1回のリュックの日(園外保育)が安心して実行できていると思います 足腰を鍛える良い取り組みだと思います	
2 園関係者評価の意見を受けて(改善策) *コロナ禍後「Withコロナ」となっていくので保育・行事についても検討していきたい *コロナの取り扱いが第5類に移行しマスク無の生活になっていくため、感染を予防しながら保育を進める *気になる子の対応を園全体で共有していく *0歳～卒園までの6年間の一貫した保育の長期計画を立てていく					